



長野県民生児童委員だより

Vol. 121

2015
Summer

平成27年7月28日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

つなぎ

特集

軽井沢で245人が交流

平成27年度(第75回)関東ブロック
民生委員児童委員活動研究協議会

in Karuizawa



Contents

◆特集

- 平成27年度(第75回)関東ブロック
民生委員児童委員活動研究協議会報告 …………… 2~7
- 1日目全体会・記念講演：小宮山洋子氏 …… 2~3
 - 2日目分科会報告 …………… 4~7
 - スタッフ&参加者ピンナップ …………… 4~7

◆つなぎ人

「長野市地域包括支援センター博愛の園 穂谷かつ江さん」 …… 8

特集

軽井沢で245人が交流

平成27年度(第75回)関東ブロック 民生委員児童委員活動研究協議会

第1日目

平成27年度 第75回
関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会



長野県民生委員児童委員協議会連合会 会長
伊藤 篤志



全国民生委員児童委員連合会 会長
堀江 正俊

長野県民生委員児童委員協議会連合会が中心となり、軽井沢町民生福祉委員協議会の協力のもと、去る6月25日～26日、軽井沢プリンスホテルウエストで、平成27年度(第75回)関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会を開催しました。関東ブロック18都県市から約200人が参加。講師やスタッフ・長野県の参加者を合わせて245人が参加。ご協力ありがとうございました。その様子を要約してお伝えします。

記念式典から記念講演へ

開会式では、民生委員児童委員信条の朗読に続き、物故委員に対する黙祷が行われました。

長野県の小口由美健康福祉部地域福祉課長のあいさつに続き、伊藤篤志県民児童連会長より、歓迎の言葉に加え、特に長野県内では2014年9月27日の御嶽山噴火、11月22日の白馬村神城断層地震、現在も続く浅間山の小規模な噴火の状況をあげ、「安心安全の地域づくり」への取り組みの重要性を訴えました。

来賓挨拶として、全国民児連会長の堀江正俊氏からは、地域毎の課題の独自性、孤立・孤独死、ひとり親や虐待、認知症などの問題に触れ、多様な課題への対応、民生児童委員の活動の環境整備についてあげ、委員同士や住民との関係を大事にして一歩踏み出す勇氣をもつて、住民の心の拠り所となる活動と呼びかけました。

長野県社会福祉協議会会長腰原愛正氏は、年々重くなる地域課題に現場で取り組んでいるのは民生児童委員だとし、感謝の意を述べました。

続いて開催地である軽井沢町藤巻進町長は、135年の

歴史と、年間830万人の観光客が訪れる軽井沢町を紹介し、浅間山の小規模な噴火に対する安全性について強調しました。



長野県社協 会長
腰原愛正



基調報告
「民生委員・児童委員活動
をめぐる動向について」
全国社会福祉協議会民生部
池上 実 部長

基調報告では、全国社会福祉協議会民生部、池上実部長が「民生委員・児童委員活動をめぐる動向について」報告しました。関東のある県で中学2年生の女の子を殺害した母子家庭の母親の実刑判決について紹介、県営住宅の家賃滞納の末の明け渡しの日に起きた悲惨な事件だとして、母親一人に責任を課すことが酷であり、声も出せずドアすら開けてくれない人々を守るにはどうしたらいいのかと訴えかけ、「生活困窮者支援制度」について説明しました。

また、引きこもりの増加と、そこに発達障害との関係、高齢者の路上生活者の認知症の問題にも触れ、そういう人たちを抱えられる包容力を持った地域づくりをするには、互助のしくみをどうつくるのか。更に、

全国で年間100人以上の幼児の連れ去り事件を例に挙げ、安心安全の地域社会をつくるには、行政や社会福祉協議会だけではなく、住民すべてが地域に関心を持って、絆を育んでいくことを地域に呼びかけていくことに尽きると話しました。

その上で、民生児童委員数数百人が1、2ヶ月で辞めてしまつたなど、後任者が見つからないという現状を説明。災害対策基本法にも触れ、避難時の支援者の確保や情報共有の重要性を述べました。最後に、広域での委員同士の質の高い交流と仲間作りをと呼びかけ、民生児童委員の任期も実質残り1年となった中で、各地域で行政と活動について議論して欲しいと訴えました。

全体会の最後に、次回の関東ブロック活動研究協議会開催地であるさいたま市民生児童委員協議会の三宅貴二会長からのあいさつのもと、民生委員の歌「花咲く郷土を」、軽井沢町民生福祉委員協議会全員がお揃いのユニフォームをまとつてリードし、参加者全員で斉唱し式典・全体会を終えました。



大会の資料と記念品(水引)



▲軽井沢町より浅間山を望む

「超少子高齢社会の社会保障」

第1日目

記念講演



講師

フリージャーナリスト・
小宮山洋子政策研究会代表
小宮山洋子氏

記念講演では、衆・参合わせて国会議員を15年、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣（少子化対策）を歴任した小宮山さん、NHKアナウンサーとして18年、3人の男の子を育てました。今回の講演では、特に女性の労働、家族・子どもの問題を中心に講演いただきました。

「ハフ色の未来はありません」と冒頭でまず苦言を呈し、その中で社会保障の維持と拡充するための対策を、データを元にわかりやすく説明しました。

これからは「公助・共助・協働」の時代であるとし、「その核になる人材が民生委員であり、みんなが安心して生活を送れる柱となっている」と話しました。民生児童委員がもっと情報を共有できるようにすることの必要性について触れ、特に災害時に情報を把握できるように整備することと述べました。

超少子高齢社会については、15歳未満の人口が12.7%と、世界最低であること。「日本は世界の高齢社会のトップランナーである」とし、寿命は男性が80.2歳、女性が86.6歳ですが、健康寿命は男性が70.4歳、女性は73.6歳という現状があること。女性の10分の1、男性の5分の1は未婚。しかも非正規雇用が増えており、若い人たちは子供が欲しくても産めない現状にあること。生産人口は1995年をピークに年間1%ずつ減少していること。核家族と単独世帯を合わ

せると79%に上ることなど、具体的なデータを説明しました。

今や日本の国民への借金は1000兆円を超え、赤ちゃんが生まれた時点でその子は810万円を借金していることになる現実を踏まえ、2012年の社会保障と税の一体改革を説明しました。2012年には24人で高齢者1人を支えているのに対して、2050年には1.2人で支えなければならぬ。そのために、子ども子育て支援に7000億円を投入しているが、それでも海外と比べてもまだ足りないこと。同時に高齢者が長く働ける環境を作らないと支えられなくなると話しました。

今年度より子育て支援制度が変わり、認定こども園を推進しているがなかなか増えないことへの理由と対策についても説明しました。また児童養護施設に預かる子供たちの背景には虐待や障がいがあり、こどもの貧困率が16.3%となり、男女の賃金の格差が大きい日本では、母子家庭の母親が最も働いている国であるとのことを話すと会場からは、ため息が漏れました。

「人生90年時代。今の女性は良妻賢母ではなく、子供も男性も自立させていくようにするのが良妻である」「妻が先立つと夫の平均寿命は3年」「女性と男性は脳の構造が違う。夫婦生活で女性は日々、小さな引き出しにいい思い出を詰めておかないと、大変なことになる」とし、会場をわかせる「互いを知って生きることが大事」としました。

最後に、社会の問題が多様なため、民生児童委員の仕事は、ひとりひとりに寄り添って行政・NPO・市民と一緒に、共助・協働の担い手になってほしい。委員自身が心身ともに健康で、助け合って、いい社会を作って、次世代に引き継いでいくことの大切さを確認し、記念講演を終えました。



▲地元軽井沢町民生福祉委員協議会のみんが手作りで作ったエプロン

▲運営委員は県民児連から参加者への記念品として揃えた水引のピンバッジを胸に



県外からの参加者をオレンジのベストで案内



▲民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱
軽井沢町民生福祉委員協議会の皆さん
(指揮：櫻井 朝教会長)

※記事の他に、式典の前には各地の代表者・事務局長会議、講演終了後には、分科会関係者打ち合わせ会、夜には交流会が盛大に行われました。

第1分科会 報告

【第1分科会テーマ】

民生委員・児童委員が活動しやすい 環境整備に向けた取り組み

委員のための民児協活動や行政機関等との連携



コーディネーター

東京国際大学教授 高橋 五江氏

冒頭、コーディネーター・高橋五江教授がテーマについての課題提起を行い「民生委員制度は、世界に誇るべき制度だが、時代の変化に伴い、困難な諸問題に直面している」として二つの問題を指摘しました。

- ① 民生委員のなり手不足：平成二十五年一斉改選時の欠員は全国で6783人にのぼり、前回改選時の2倍近くになっている。要支援者の増加と抱える課題が複雑で深刻化しており、民生委員の負担が増えていることが原因と思われる。活動内容による苦勞や悩みが大きい：日常の相談支援活動のほか、行政からの協力要請も多いが、地域住民に活動内容が正しく知られていないことも悩みを大きくしている。

続いて、4人の委員から実践報告が行われましたが、その中から右の問題に即応する事例を紹介いたします。

【事例1】埼玉県民児協 民生委員候補者の選出について、現行の方式から民生委員または単位民児協が候補者を選出し、自治会長に推薦を依頼する方式に改めるよう市町村への指導を埼玉県に要望した。

【事例2】横浜市民児協 民生委員活動支援対策ワーキンググループを立ち上げ、市民に対するPR

実践報告者

- 埼玉県民児協副会長（春日部市民児協会会長） 鈴木 浩子 さん
- 静岡県民児協常任理事（三島市民児協会会長） 渡邊 善司 さん
- 横浜市民児協理事（緑区民児協会会長） 横塚 靖子 さん
- 川崎市民児協常任理事（麻生区民児協会会長） 田中 君恵 さん



活動、推薦事務の改善などについて検討している。

この後行われた意見交換では、「民生委員制度は創設百年を経て制度疲労を起している」「ベテラン委員は、その経験を生かし新任委員をリードすべき」などの意見が出されました。

「民生委員の資質の向上には研修が欠かせないが、活動の事例研究など委員同士の討論を伴う内容が望ましい」という高橋教授のコメントが印象に残りました。

（熊井 文弘）



新潟県民生児童委員協議会 笠原さん・本多さん・横澤さん

会場の周りの緑がきれいで、しかも各会場からも窓越しに緑が爽やかでよかったです。特に小宮山さんの記念講演では、数値をもとにわかりやすい説明が良かったです。認定子ども園のことなど子育て支援について、改めて理解できました。



軽井沢町民生福祉委員協議会会長 櫻井朝教さん

多くの方に軽井沢に来ていただき歓迎申し上げます。歌の力は大きい!!コーラスの練習を重ねるうちに、みんなの心がひとつになりました。本番は大成功でした。コーラス部を作った今後、慰問活動をしてほしいと思います(笑)。民生委員はみな同じ接点を持っています。普段地域では外を向いて活動している分、今回の研究協議会では委員同士互いに頑張っていることを確かめ合い、交流を深めて欲しいと思います。

(1日目民生委員の歌「花咲く郷土」合唱のあとのインタビュー)



千葉県民生児童委員協議会 大野さん・宮川さん・松本さん・榎本さん

研修会開催前に早く着いたので、ホテルの周りを散策しました。涼しくて緑が綺麗で素敵なお場所ですね。特に軽井沢の民生福祉委員のみなさんに感謝です。小宮山さんの記念講演で、ひとり親や認定子ども園の問題は地域で身につまされる問題でした。



軽井沢町民生福祉委員協議会のみなさん

合唱のあとの中庭で写真撮影しました。お揃いの手作りエプロンが印象的でした。会場や運営準備、駅でのお出迎えや会場内外での案内などなどお疲れ様でした。



2日間の研究協議会の会場で、記者がランダムに参加者にインタビューしました。

※紙面の都合上、一部紹介できなかった方もいます。ご協力ありがとうございました。また写真と名前は順不同です。ご了承ください。

第2分科会
報告

【第2分科会テーマ】

生活困窮者自立支援制度施行を受けた取り組み

支援制度施行に伴う課題と自治体等との協力のあり方



コーディネーター

桜美林大学
健康福祉学群教授
大溝 茂氏

第2分科会では、東京都品川区・千葉県佐倉市・茨城県土浦市・静岡県浜松市より実践報告が行われました。

品川区 「暮らし・仕事応援センター」が設立され民生児童委員は高齢者相談員として、リーダー研修会・制度の学習会等を実施し行政と地域のパイプ役として活動している。

佐倉市 地域を巻き込み1人の困窮者を、生活自立させた事例を発表。本人を説得し、了承の上での対処であり訪問担当者の一生涯命と周りの協力が伝わる大変有意義な報告でした。

土浦市 「地域ケアシステム」の構築がなされており、「ふれあいネットワーク」事業を通して支援を必要とする人の対策が検討されているとのこと。民生児童委員は支援の必要な方の早期発見に努め相談に応じてネットワークでの支援を行うと共に必要がある場合はケアシステム会議に繋いで対策を講じている。

浜松市 「西区安心ネット」活動の中より民児協が中心となる地域の福祉関係機関を参加メンバーとして「安心ネット協議会」を設立し、課題の共有、早期対応、見守りの仕組みの構築をした。今後は

実践報告者

- | | |
|--------------------|-----------|
| 東京都民児連常任協議員品川区会長 | 石川 政則 さん |
| 千葉県佐倉市民児協児童専門部会部会長 | 高野 富佐代 さん |
| 茨城県民児協副会長 | 佐野 道夫 さん |
| 浜松市民児協理事 | 川本 史郎 さん |



自立支援機関とも連携し困窮者の早期発見・見守りに努める。

コーディネーターの大溝先生より、「皆さんが行っている見守りはどこまでその人(家庭)の実情を理解していますか? 通り一遍の見守りや訪問では生活困窮者の早期発見には繋がりません。より一層の細やかな見守りを」という総評をいただきました。私達が実施している、見守り・安否確認・訪問支援等をより充実化し、生活困窮者(家庭)の早期発見に努めることの重要性を学んだ分科会の実践報告でした。

(草深 邦子)



横浜市民生児童委員協議会のみなさん
江渕さん・橋本さん・小宮山さん・
青木さん・宮田さん・横塚さん・
赤塚さん・長瀬さん・西谷さん・
山田さん

記念講演の小宮山さんとは、2012年社会保障の改革の特別部会で一緒にしました。その時に民生児童委員が活動しやすい環境を整えて欲しいと要望しました。貧困の連鎖や生活困窮者支援については大変身近な問題としてとらえられて良かったと思います。(コメントは長谷川さん)

参加者
ピンナップ



浜松市
民生児童委員協議会 川本さん

軽井沢駅を降りたら、さわやかな空気が流れ気持ちいい。各地のモデルをできるだけ持ち帰って実践に生かしたいです。



東京都民生児童委員連合会 福田さん・田中さん・荻野さん

新幹線で東京都から1時間という会場は最高のロケーションでした。小宮山さんの記念講演で数字に基づいた説明は納得できました。



相模原市民生児童委員協議会 原さん・野崎さん・
中村さん・尾崎さん・野村さん・中西さん・歌丸さん

県内外の民生委員と交流ができ、関東ブロック研究協議会はとてもいい機会だと思います。地域によって工夫を凝らした活動をしていて参考にして帰りたいと思います。

第3分科会 報告

【第3分科会テーマ】

要介護や認知症の高齢者への 支援に向けた取り組み

認知症高齢者等にやさしい 地域づくりに向けて



コーディネーター

長野大学 学長 中村 英三氏

実践報告者

- 群馬県渋川市民児協会長 小澤 孝さん
新潟県燕市分水地区民児協会長 山岡 重雄さん
静岡県清水区飯田地区民児協会長 柳本 宮子さん
千葉市312地区民児協会長 田村 勝子さん



小澤さん：何よりも民生委員の活動の軽減をどうしたらよいか？

2025年、団塊の世代が高齢化を向えた時、活動の限界ではないかとの不安から私たちが必要とする人々に寄り添って活動する為に「ささえあいマップ」などを作って行政、市社協、自治会、市民協が一体となって活動する事が重要です。ひとりでは何もできない！組織としての活動が大切なんだと感じたとのこと。地域はだれの為にあるのか？たこの糸(家族を大切に)よこの糸(地域力)で住みよい地域にしていきたい。

山岡さん：まず、みんなで認知症の勉強をしました。認知症サポーター養成講座を受講して感じた事、勉強になった事は認知症の人を支えるには◎本人の気持ちに合わせる。◎対応を本人のペースに合わせる。◎本人の思いを理解する。◎安心できる環境を作る。◎話しに共感して受け入れる。

認知症かな、と思ったら早めに医師に相談することが大事です。そして、「地域で見守る」という事が重要です。柳本さん：毎年、民生委員による高齢者のみの世帯等を訪問し、実態調査は私たちの想像をこえる悲惨な状況状態が把握され、あきらかになる事があります。その調査結果は、市の福祉施策や民生委員活動の基礎データとなるとともに、地域包括支援センターに提供

され、自主防災組織・消防とも連携し、地域の見守り活動に有効活用されます。この調査を通じ、認知症の方々と関わる事で、その町をやさしく作り変えていく事になると思います。

田村さん：認知症のケアは、なにも資格がなくても思いやりがあればケアできるとの思いで関わっています。病気を隠さずに皆さんに協力してもらう様、家族を説得し、元気な高齢者にもボランティアに参加してもらう。

中村先生：認知症の人は、自分を人として人格もあり大切にしてもらいたいと思っている。地域で認知症の人がいても人として見れば、接し方、関わり方、寄り添い方も違ってくる。人として全人的に関わりながら見ていくという事がこれからは大事なことです。

また、認知症は先天性ではなく後天性のもので、その方が何十年も蓄積してきた知的財産を自分が望んでいないのに失う病气であり、単に子供に帰ることでない。その人には素晴らしい人生があり、こんなに立派な人だったことを認めることが大事です。

認知症の人にかかわる、すべての人々がプライバシーや個人情報を守りつつ支援する事はとても難しい事です。が、だれかを思いやる事は、いい出会いと共存できると思います。(古川 友枝)



静岡県 民生児童委員協議会副会長 萩原さん(県職員原田さん、事務局柿澤さんと)

長野県民児連のみなさんの心温まる対応は、参加者にとって、安らぎを与えられたように、人柄が感じられました。研修では委員同士の連携ができたような交流ができました。ありがとうございました。

東京は蒸し暑いので、軽井沢は涼しくていいですね。小宮山さんの講演ではNHKキャスターだったこともあり、親しみを持って聞くことができました。

東京都 民生児童委員連合会 石川さん



スタッフの方々の気配りに感謝です。特に改札を出たところにもいって下さり、安心感がありました。ぜひ自分の地域の研修会などでも生かしたいですね。主任児童委員なのですが、小宮山さんの子ども支援に関する話は参考になりました。

千葉県民生児童委員協議会 高野さん



新潟市 民生児童委員協議会連合会 白崎さん、坪井さん、丹羽さん

各地域で皆さんがよく活動されていて感激しました。1日目の夜の交流会は地域がバラバラの席で最初は戸惑いましたが、積極的にコミュニケーションができました。



長野で研修できて幸せです。第3部会のメンバーはみなさん話し方が柔らかく、気軽にできそうです。1日目の小宮山さんの記念講演と、全国社会福祉協議会の池上さんの基調報告、両方共大変わかりやすく良かったと思います。

第3分科会実践報告者 小澤さん(群馬県)・柳本さん(静岡県)・田村さん(千葉市)・山岡さん(新潟県)

参加者 ビンナップ

第4分科会 報告

【第4分科会テーマ】

民生委員児童委員活動と主任児童委員との連携

子どもを犯罪被害から守る取り組みや子ども子育て支援活動



コーディネーター

昭和女子大学講師
國學院大學講師

高橋 久雄氏

近年、核家族化ともなう生活様式など社会情勢の変化等によって子どもを取り巻く問題が多様化、複雑化しています。

民生児童委員はこれまで小学生の登下校時の見守りやパトロール、地域の安全マップ作成等、さまざまな取り組みを行ってきました。しかしながら子どもたちが被害者になる事件や事故が頻発しています。

そこで地域ぐるみで子どもたちを犯罪被害から守るための取り組みや児童委員と主任児童委員の連携のもとに取組んでいる子ども・子育て支援活動について協議をしました。

- 山梨県甲府市の朝日地区では「安心安全なまちづくり」を目標として、地域全体で子どもを見守る体制を整えて毎日活動している内容を発表しました。
- 栃木県足利市の山辺地区からは、主任児童委員は学校と密接な情報を共有しながら、地域や児童委員と保育園・小中学校などとのパイプ役として活動している報告でした。

- 新潟市豊栄早通地区は大きな県営団地をかかえる事情や、帰宅の遅い両親が多いなどから、駅にたむろする中高生など少年の居場所づくりを地元大

実践報告者

山梨県甲府市朝日地区民児協会長

栃木県足利市山辺地区民児協主任児童委員

新潟市北区豊栄早通地区民児協主任児童委員

相模原市大沢地区民児協会長

菊地 孝子 さん

萩原 恵美子 さん

草間 静江 さん

大貫 君夫 さん



学生と協力して立ち上げた活動の発表でした。

神奈川相模原市の大沢地区からは学校と家庭と地域で、子どもたちが様々な大人と出合える場を提供し、子どもの可能性を模索しながら見守りをしている発表でした。

最後にコーディネーターからまとめとして、「子どもたちの情報を主任児童委員が主体になって、児童委員や学校そして地域からこつこつ集めることで課題が見えてくる。」

また、支援を必要としている人に対しては相手を尊重することが求められる。

民生児童委員は行政の下請けにならず、子どもから老人まで安心できる活動を心がけて欲しい」と、纏めて締めくくられ分科会を終了しました。(依田 宗夫)



第4分科会では、運営委員のみなさんの時間の配分などが適切で大変よい進行でした。会場も同じフロアで近くていい配置でした。ありがとうございました。

山梨県民生児童委員協議会

戸田さん、手塚さん、山口さん、村松さん、上野さん、保阪さん、菊地さん、山田さん、奥山さん



米国の映画に出てきそうな素敵な町、軽井沢でリラックスして研修にのぞめました。自立支援法は施行間もないのに、各地で取り組んでおられて感心しました。他県の人ともつながれていい研修会でした。

群馬県民生児童委員協議会 梅澤さん

参加者 ピンナップ



長野県の運営委員全員で

玄関で皆さんをお見送りしたあと、長野県の運営委員会みんな写真撮影。数ヶ月に渡る準備と、当日前夜から3日間にわたりお疲れ様でした。



さいたま市民生児童委員協議会

根本さん・小熊さん・渡邊さん、大川さん、野口さん

自分たちと違った活動を知ることができて参考になりました。しかし、あそこまで頑張れないと思うこともあり、無理なく、人と比べずに行っていきたいと思えます。

長野市地域包括支援センター博愛の園

所長・主任介護支援専門員 穂谷 かつ江 さん

**医療・介護・教育の現場と
地域のつなぎ役に**

長野市北部の浅川地区にある「長野市地域包括支援センター博愛の園」は、浅川地区・第二地区・芋井地区を範囲としています。包括支援センターがオープンした平成18年から所長を務める穂谷かつ江さんは、地域では頼れる存在です。「この地域では、困ったときにはいつでも民生児童委員さんと連携して対応できることが強味です」と明るい笑顔で話します。

穂谷さんは須坂病院で看護師として働き、自身の足を手術をきっかけに一時的に現場を退き、上田市医師会の看護学校で看護師養成の講師を務めていました。その後、県庁で諏訪市の県立福祉大学の設立準備に携わり、設立後は介護福祉学科で教鞭を取ります。平成7年から13年まで120人以上の教え子を社会へ送り出しました。

長野市に戻り、教え子を包括支援センターの母体(社)博愛会が運営する特別養護老人ホームに

紹介したのをきっかけに、平成14年から在宅介護支援センター、包括支援センターの勤務の傍ら、非常勤講師として上田女子短期大学で学生指導にもあたっています。

医療現場、介護現場、教育現場を経験してきた経歴を持ち、包括支援センター運営にまさになくはならない人材です。自身も家庭での95歳の義父の介護経験があり、常に学生とも接しているため、高齢者だけでなく子育て支援まで幅広い知識を持っています。「この仕事は楽しい。辞めたいと思ったことは一度もない」と話します。「若いうちから福祉の現場に携わることで、自分自身のライフデザインを早めに描くことができる」と強調します。学生を実践現場として職場体験させることもあるそうです。相談者に対して初回は必ず2人で対応するなど、職員同士の情報共有も欠かしません。コーディネート力が問われる難しい仕事にもかかわらず、4人の女性スタッフはほとんど入れ替わることなく、地域での情報を民生児童委員と共有しており、福祉関係者からの信頼が厚いことがうかがえます。

「民生児童委員の方には、問題を自分だけで抱え込まないで共有して欲しいと思います。気軽に包括支援センターへ訪ねて来てください。私たちも民生児童委員さんとなががっていることで、安心して仕事ができます。感謝しています」とのこと。

穂谷さんは、ケアマネジャー指導の経験もあり、医療・介護・教育などの研修会講師としても県内を飛び回っています。



編集委員

リレー日記

各地で火山活動の活発化が報じられる中、浅間山の動きが一番気になり、いつか噴火するのではと心配のつきない今日この頃です。

私達の日頃の見守り・交流から築かれた「つながり」やご近所や町会等との連携を密にしておくことは災害時だけでなく、まだまだ増加傾向にある各種の特殊詐欺事件を防ぐ事に役立つと思います。

新しく施行された生活困窮者自立支援制度は該当すると思われる人を、早く発見することが私達に求められています。個人の尊厳を傷つけることなく、困窮者であると決めるのは大変なことで、日頃の繋がりが無くしてこの制度への協力は難しいと思われれます。学校・保育園等との連絡を密にしておくことも困窮者早期発見の一つの方法かと考えられます。

新たな福祉制度や多様化する地域課題に、私達民生児童委員への期待や協力はより大きなものになると思われ、今後そのあり方や、方法については、その地域にあった方法を考え構築し実践していくのがよろしいかと思えます。

草深邦子